

製鉄・製鋼・圧延業における転倒災害の死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
1	21～22	宿泊先に向かう途中の横断歩道で対向者とすれ違う際、足を滑らせ転倒し、左足を捻った。道路は、アイスバーン状態であった。	46～299	100
3	13～14	鑄造工場内で解砕バラシ作業時、金杵の吊りテングにチェーンを掛ける時に身体のバランスが崩れ、金杵で膝を打った。	57～49	30
5	21～22	勤務終了後、更衣室で着替え中にズボンをはこうと片足立ちになった際、バランスを崩し転倒した。その際に尻もちをつき、次第に痛みが酷くなり、我慢できなくなった。	50～299	100
11	17～18	製鉄所内で業務終了後、更衣のため自転車でロッカーに向かう途中に、バランスを崩し転倒した。転倒時には痛みを感じなかったが、帰宅後痛みを感じ病院で治療をした。	73～29	10
12	10～11	製品倉庫にて製品出荷の為、鉄筋のバラ数取り作業を行っていた。数取り作業終了後、次の作業に移る為、5番出荷口に移動中、進行方向に製品の別山があった為、製品の上を移動し降りた（鉄筋束2段積、高さ約40cm）。その際、足元の枕木に左足から着地したが踏み外し、バランスを崩して転倒し、足首を捻じってしまった。そのまま作業は継続したが、夜に入浴する際、腫れがひどくなっているのに気づき、翌日整形外科を受診し、靭帯損傷と診断された。	22～299	100
12	9～10	当社冷間鍛造工場勤務している派遣社員は、午前休憩後、現場へ戻る途中に意識を失い倒れた。ヘルメット、保護メガネを着用したまま顔面から倒れ、保護メガ	41～	300

ネにて右頬を受傷したと推測される（20針縫合）。意識を喪失した原因については不明であり、災害性はない。

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pgm/SHISYO\\_FND.aspx](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx)(職場のあんぜんサイト)

Return to : [https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206\\_09.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_09.html)